

第二小学校/高松児童館/曙学童保育所複合施設の事業手法について

1 概要について

前期施設整備計画に基づき整備を予定している第二小学校/高松児童館/曙学童保育所複合施設について、整備方針の実現と市の財政負担の最小化を目的として、内閣府「多様な PPP/PFI 手法導入を優先的に検討するための指針」を参考に、民間事業者のノウハウや意向を踏まえた PFI 手法等の民間活力の導入を視野に入れた検討を行いました。なお、「簡易な検討」においては、定量評価だけではなく、サウンディング型市場調査結果を踏まえた定性評価を考慮して検討しました。

2 検討結果について

○簡易な検討

【参考】内閣府「PPP/PFI 手法導入優先的検討規程 運用の手引」

		従来手法	DBO 手法	PFI 手法
定量評価		32.9 億円	31.8 億円	32.0 億円
	VFM	-	▲1.1 億円 (3.3%)	▲0.9 億円 (2.7%)
定性評価	導入事例	○	○	○
	民間ノウハウ	×	○	○
	競争の効果	○	○	○
	時間的制約	○	○	○
総合評価		△	○	○

(評価欄には、「○：適している」、「△：やや適している又は、一部適していない」、「×：適していない」のいずれかを記載)

DBO手法及びPFI手法はいずれもVFMや民間事業者のノウハウの活用が見込まれ、整備等に関する時間も短縮され、現在想定している令和9年度中の供用開始が見込まれるため、有効な事業手法と評価できます。

なお、以下の点については、特に留意して進める必要があります。

- (1) PFI手法を活用する場合は、国が示す簡易化した事務手続きが活用でき、今後、策定予定の「整備基本計画」と「導入可能性調査」を一括実施することにより全体事業スケジュールの更なる短縮が見込まれます。
- (2) 仮設校舎を別敷地に建設することが可能であれば、工事期間中の児童等の安全が確保され、かつ工期が短縮され授業の影響が少なく済むほか、よりVFMが見込まれますが、第二小学校周辺での別敷地の確保は難しい状況です。なお、整備事業に仮設校舎建設を含め一括して行うことで、よりVFMが見込まれます。
- (3) 維持管理の内容や、児童館及び学童保育所の運営手法、学校プールの考え方等により検討条件が異なるため、維持管理・運営の範囲を整理する必要があります。
- (4) 基本計画や要求水準の示し方は、事業者がノウハウを生かしやすい内容とすることが重要です。
- (5) PFI手法においても、国が推奨する「PPP/PFI 地域プラットフォーム」の活用や「コレクティブインパクト・リスト」の活用により、意欲のある地元事業者の参画が考えられます。
- (6) 当該複合施設に関する跡地・跡施設については、立地条件や活用期間が限定されるため、跡地等を含めた一体的整備の効果は限定的です。

3 今後の進め方について

「簡易な検討」結果において、DBO手法及びPPP／PFI手法の有効性を確認したことから、下記の通り「詳細な検討」を行い整備手法の決定をします。

- ・「詳細な検討」においては、庁内検討委員会を設置し検討を進め、「整備基本計画」の策定と「導入可能性調査」を一括して行います。なお、策定にあたっては、前期施設整備計画や学校施設標準仕様※を踏まえます。
- ・検討の際には、「簡易な検討」結果を踏まえて進めます。
- ・跡施設については、今回の整備では検討に含めず、別途、検討していきます。

※前期施設整備計画に基づき、小・中学校の建替えを順次進めていくにあたり、新たな教育ニーズに対応した良好な教育環境の整備、学校間の教育環境の格差解消、建設、維持管理コスト等のライフサイクルコストの縮減等を目的に、学校施設を整備するうえでの統一基準となる標準仕様を令和3年度中に策定予定。

4 スケジュール目安について

令和9年度中の供用開始を目標とし、検討を進めていきます。

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
従来手法			基本・実施設計		解体・建設工事		供用
DBO手法		整備基本計画策定・導入可能性調査	事業者公募・選定・契約	基本・実施設計	解体・建設工事		供用
PFI手法					解体・建設工事		供用